

件 名

教科等横断的な学びの推進に係る事業について

提出理由

教科等横断的な学びの推進に係る事業について、別紙のとおり報告します。

概 要

1 目的

- (1) 教科等横断的な学びについて
- (2) 事業目的

2 事業概要

- (1) SDGsの実現に向けた教育推進事業
- (2) 県立高校学際的な学び推進事業「学・SAITAMAプロジェクト」

3 成果

4 事業全体の課題と今後の方向性

- (1) 事業全体の課題
- (2) 今後の方向性

1 目的

(1) 教科等横断的な学びについて

教科等横断的な学び (= 学際的な学び)

学習内容が複数の異なる教科・領域にまたがっている学び

(2) 事業目的

教科等横断的な学びを推進するため探究活動を通じて主体的に行動を起こす力を育成する。



環境をテーマにした学びなら...

物質の性質 (理科)、歴史的背景 (社会)、データ分析 (数学・情報)、分かりやすい伝達 (国語・美術)

予想がつかない社会 (少子高齢化、生成 AI などの技術革新、環境問題等) を生き抜く力

2 事業概要

(1) SDGsの実現に向けた教育推進事業（小・中学校）

SDGsの実現に向けた様々な課題について、学校と民間企業やNPO等の団体が連携し、教科等横断的な実践事例を研究し、県内に普及する。

モデル校での取組

- ア 課題解決に向けて企業・団体と連携した授業実践
- イ 児童生徒へのSDGsの啓発
- ウ 年間指導計画の検討
- エ 家庭、地域への発信

モデル校 9校

上尾市立今泉小学校

川島町立つばさ南小学校

皆野町立三沢小学校

蓮田市立黒浜南小学校

上尾市立西中学校

川島町立つばさ北小学校

皆野町立皆野中学校

蓮田市立蓮田南中学校



児童がまちづくりについて発表している様子
(皆野町立三沢小学校)

川島町立川島中学校

2 事業概要

(1) SDGsの実現に向けた教育推進事業（小・中学校）

モデル校の取組例

蓮田市立黒浜南小学校 第6学年「20年後の蓮田をプロデュースしよう」
学校で作成した、ア～ウの流れに従って実施

ア 「知る」

市役所職員や農家などの外部人材から直接話を聞き、児童が話し合い、20年後の蓮田をプロデュースする提案内容を考える。

イ 「考える」

提案内容に対し、企業や団体等の外部人材から指導・助言をもらい、多様な視点を取り入れる。

ウ 「行動する」

考えをまとめ、蓮田市長等に向けて、プロデュース案を提案する。

[児童から蓮田市長への提案内容の例]

健康に生活できるまちづくりに向けて、「蓮田健康弁当」を作成し、市役所で販売する。

[協力企業等] 白岡中央総合病院、蓮田市商工会、蓮田市役所、
東京ガス株式会社、積水ハウス株式会社、I K E A 新三郷等



蓮田市長へ健康に生活できるまちづくりを提案している様子

2 事業概要

(2) 県立高校学際的な学び推進事業 「学・SAITAMAプロジェクト」 (高等学校)

課題とその解決策を提案できる人材を育成するために、探究活動及び教科等横断的な学びに関する教育を研究し、県内に普及する。

事業期間：令和5年～7年 モデル校12校 3年継続

事業内容

ア モデル校での取組

- ・外部機関と連携した探究活動の実施
- ・教科の枠を超えた授業の実践
- ・教育課程や年間指導計画の検討

イ 県立高校教職員を対象とした取組

教職員対象研修会

ウ 探究活動生徒発表会の実施

モデル校 12校

理数に関する取組

川口北高校

松山高校

所沢北高校

SDGsに関する取組

春日部女子高校

秩父高校

小川高校

松山女子高校

坂戸高校

飯能高校

産業に関する取組

児玉高校

浦和商業高校

春日部工業高校



英語と理科の教員が協力した授業(坂戸高校)

英文のテーマ:

『現代に恐竜をよみがえらせることができるか』

2 事業概要

(2) 県立高校学際的な学び推進事業 「学・SAITAMAプロジェクト」 (高等学校)

モデル校の取組

児玉高校

テーマ「こだま学を通し、本庄児玉地域の産業、文化等を知る」

ア 「こだま学」の実践

地域と協力した、本庄、児玉地域の歴史や地理、商業等に関する講義やフィールドワークの実施

【協力外部団体】本庄市教育委員会、本庄市商工観光課等

イ 探究活動に関わるプラットフォームの作成

ウェブページ上で学校外の関係者との連絡や学校の取組の発信を行える仕組みを構築

ウ モデル校が主催するオンライン情報交換会の実施

県内外の高校の教員が参加し、探究活動や教科等横断的な取組の指導方法や各校の課題について情報交換している。



本庄市の職員が地域の課題を生徒たちにプレゼンテーションしている様子



NPO法人の方とともに公園の環境整備を行い現場の課題等を聞き取っている様子

2 事業概要

(2) 県立高校学際的な学び推進事業 「学・SAITAMAプロジェクト」 (高等学校)

教職員を対象とした取組

教職員研修会 (オンライン)

令和6年度 計7回実施 延べ 383名参加

アーカイブ動画を全県立高校に周知予定

(令和5年度 計8回実施 延べ 500名参加 (一部対面で実施))

令和6年度 研修会テーマ

第1回 探究活動の教員のコーチング

第2回 埼玉県のSDGsに関する取組の紹介

第3回 STEAM教育に関する取組の紹介

第4回 埼玉県のオープンデータの活用の仕方

第5回 データサイエンスと社会のつながり

第6回 探究活動と進路指導の関連性

第7回 探究活動とアントレプレナーシップ

(講師)

(大学教授)

(県職員)

(研究機関職員)

(県職員)

(企業職員)

(他県高校職員)

(大学教授)



オンラインでの教職員研修会の様子

2 事業概要

(2) 県立高校学際的な学び推進事業 「学・SAITAMAプロジェクト」 (高等学校)

探究活動生徒発表会の実施

ア 概要

令和6年12月26日(木)実施	会場	日本薬科大学さいたまキャンパス
県公立高校生徒 35校 451名		
見学者 578名		
合計 1,029名		

イ 発表件数 159件

内訳	大教室でのプレゼンテーション(口頭発表)	66件
	広間での個別プレゼンテーション(ポスター発表)	93件



大教室でのプレゼンテーション(口頭発表)



広間での個別プレゼンテーション(ポスター発表)

3 成果

(1) SDGsの実現に向けた教育推進事業 (小・中学校)

児童・生徒の社会課題に対する意識の向上

児童生徒は、企業や市役所、地域の方々と連携した学習を行ったことで、様々な課題について、実際の現場の話を知ることができ、課題を自分事として捉えることができるようになった。

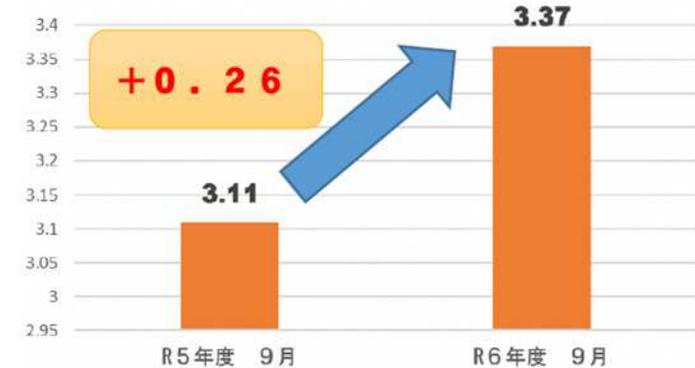
また、課題解決へ向け、具体的なアドバイスを受けることで、解決策を考え、実際に行動することができる児童生徒が増えた。

地域の一員であるという意識の向上

児童・生徒に対する講義や企業等とともに提案内容を考えることで、よりよい社会づくりのために、地域や企業と協力しようとする意識が高まり、社会の一員であることを自覚するようになった。

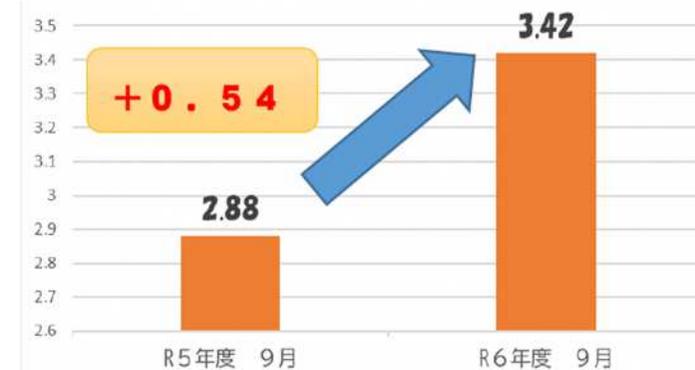
また、児童生徒が地域への愛着が高まり、持続可能な地域社会にしたいという意欲の向上につながった。

蓮田市立黒浜南小学校児童の自己評価の推移(4段階評価による平均値)



「課題解決のために自ら進んで活動する」

4:よく取り組んでいる、 3:取り組んでいる
2:あまり取り組んでない、 1:まったく取り組んでいない



「よりよい社会づくりのために、地域や企業の人たちと協力しようとする」

4:よく取り組んでいる、 3:取り組んでいる
2:あまり取り組んでない、 1:まったく取り組んでいない

3 成果

(2) 県立高校学際的な学び推進事業 「学・SAITAMAプロジェクト」 (高等学校)

生徒の社会課題に対する意識の向上

自治体や企業と連携した取組を行うことで、探究活動を深め、**社会課題を自分事として捉えることができた。**

・ 探究活動生徒発表会 発表者アンケート結果

身の回りの問題や課題を意識するようになった生徒 **92.4%**

Q：探究活動を行うことで、身の回りにある問題や課題について気が付くことができましたか。

「そう思う」50.5%

「ややそう思う」41.9%

あまり思わない15.9%

思わない 1.6%

これまでの学習内容を基に問題や課題と向き合うことができると感じた生徒 **84.9%**

Q：探究活動を行うことで、学んできたことを持ち寄って身の回りにある問題や課題と向き合うことができると感じることができましたか。

「そう思う」53.2%

「ややそう思う」31.7%

あまり思わない13.4%

思わない 1.6%

・ 探究活動生徒発表会 発表生徒の声

口頭発表でいただいた質問をきっかけに、更に探究を深める意欲が湧いてきました。発表を終えられた達成感が、この先の探究のモチベーションになりました。

見学者の声

仮説や実証、考察が的確で、分かりやすかった。課題解決に向けて具体的な方法、分析がされ、誰がその役割を担うかまで考えられていた。(企業関係者)

3 成果

(2) 県立高校学際的な学び推進事業 「学・SAITAMAプロジェクト」 (高等学校)

授業改善に対する教職員の意識の向上

モデル校では、教科等横断的な授業の実践や授業研究会等を通して、**授業改善に向けた取組**が行われた。また、県での教職員研修会の内容を基に、学校の取組に生かす例が増えた。

参加した教職員の声(一例)

- ・探究活動をどう進路指導につなげるか、学校で取り組むための糸口が見つかった。
- ・生徒が探究活動する際の教員の関わり方について学ぶことができた。

発信方法の工夫

- ・モデル校が外部向け教職員研修会を主催
- ・モデル校がホームページで実践教材や外部連携先を公開
- ・探究活動発表会を実施し生徒や教員同士が刺激し合い学び合える場を創出

- 例 所沢北高校
作成した教材や指導案をホームページで公開
- ・公民と理科による授業教材
 - ・数学と体育による授業教材 等



(2) 国際社会及び我が国の動き
⇒ 1992年 国連環境開発会議(地球サミット ブラジル・リオ)
気候変動枠組条約採択
1997年 COP3 京都議定書採択
2015年 COP21 パリ協定採択
2020年 菅内閣で、2050年までに我が国の温室効果ガス排出を 実質ゼロ に!と宣言
排出量-吸収量(一除去量)=0
⇒カーボンニュートラル

気候変動問題に関する公民の授業と教材例(所沢北高校)

4 事業全体の課題と今後の方向性

(1) 事業全体の課題

各教科での学びを、教科等横断的な学びや探究活動で更に活用できるよう教員の指導スキルを更に向上させる必要がある。

教科等横断的な学びや探究活動を更に充実させるために、大学や企業の取組を学校が教材化しやすいようにする必要がある。

例 令和6年度探究活動生徒発表会アンケート結果(高校)
・探究活動に教科で学んだ知識や技術を活用したか

あまり思わない 19.4% 思わない 10.8%

「そう思う」 33.3% 「やや思う」 36.5%

30.2%の生徒が「あまり思わない」、「思わない」と回答

例 担当教員からの声

自らの資質を高め、子供たちの探究的な学びの意欲が高まるような魅力的な取組にしていきたい。

連携先を拡大し、多くの大学や企業の取組を参考に探究活動を充実させたい。

(2) 今後の方向性

教科等横断的な学びや探究活動についての継続的な指導助言

・教職員や市町村教育委員会を対象とした研修会や情報交換会等を実施し、専門家の意見も取り入れながら、教科等横断的な学びに向けた授業改善や年間指導計画の見直しのための指導助言を継続的に行う。

県教委が連携している大学・企業・自治体の情報を学校へ提供

・各学校に対して、県教委が連携している大学・企業・自治体の情報を積極的に提供することで、学校が連携先を新規に開拓するための支援をし、探究活動の深化を図る。

参考

取組の様子は、県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」（いまたま）で放送されました。下のQRコード「埼玉県公式チャンネル（サイタマどうが）」から視聴することができます。



(1) SDGsの実現に向けた教育推進事業



令和6年11月9日（土）放送

（動画内 2：47 ~ 14：09）

- ・事業概要説明
- ・蓮田市立黒浜南小学校・蓮田南中学校の取組

(2) 県立高校学際的な学び推進事業 「学・SAITAMAプロジェクト」



令和6年2月17日（土）放送

（動画内 1：46 ~ 15：26）

- ・事業概要説明
- ・春日部女子高校の取組
- ・探究活動生徒発表会の様子